# 輸送業務全般で提携

## 陽品運輸倉庫とホクブトランスポート

陽品運輸倉庫（本社・市原市、鈴木輝彦社長）とホクブトランスポート（本社・高崎市、梅山立之社長）は輸送業務全般にわたる業務提携を締結した。両社は２０１７年10月から配車業務で提携してきたが、物流業界でのドライバー不足や法令厳格化などの環境変化に対応するためアライアンス事業の拡充を検討し、提携の枠を拡大することで合意した。

## 関東一円を網羅

### 東北・北海道もカバー

## 両社相互に13拠点利用

### 工業用バルク120台 ローリー計350台超

陽品運輸倉庫は▽千葉県＝市原市、袖ケ浦市、野田市▽埼玉県＝寄居町――に大型タンクを置く事業所があり、昨年12月には茨城県笠間市に新事業所を開所した。ホクブトランスポートは▽群馬県＝玉村町▽栃木県＝佐野市▽埼玉県＝所沢市、杉戸町▽千葉県＝市原市▽宮城県＝大衡村▽青森県＝青森市▽北海道＝帯広市――に拠点を展開している。

これら陽品運輸倉庫の事業所とホクブトランスポートの支店を合わせた拠点数は13カ所になる。保有するＬＰガスローリーは両社合わせて３５０台を超え、今回の全面的な業務提携で関東一円を網羅する配送ネットワークが構築される。

提携枠拡大の効果としてまず挙げられるのが、陽品運輸倉庫が保有・運営する内陸部の野田事業所（野田市）、北関東事業所（寄居町）と12月に開所した水戸事業所（ＬＰガス総合物流センター、笠間市）の三つの基地を両社が共同利用できるようになることだ。

この三つの内陸基地を中継基地と位置付け両社の車両が共用することで、西は長野、東は福島方面までカバーする強固な輸送体制を確立する。加えて、これら3基地を二次拠点として機能させ、共通の中間基地とすることで、これまで以上に安全・安定的な配送を実現できるようになる。

バルク供給の需要とニーズの高まりに対しても効果を発揮する。

両社はともに、工業用バルクローリーを多く保有する。両社が関東エリアに配備するその数は、合わせて約１２０台に上る。

産業用大口ユーザーへのバルク供給が主流を占める現在、輸送サイドでは片道実車の非効率性を解消し、いかに実車率を高めるかが大きな課題となっている。その解決に効果を発揮するのが内陸の中継基地の活用であり、これで実車率を60～70％に高める効果が期待できるようになった。

実車率の向上は輸送業者だけでなく、荷主にとっても重要な課題。まさにバルク供給に最適な体制を整えたと言える。

ソフト面でも大きな効果が期待できる。提携第1弾でホクブトランスポートの強みを生かした配車管理を導入し、無駄を省き効率的な配車を実現した。そして業務全般にわたる提携を結んだことで、今後は積極的な人事交流をはじめ、営業展開、車両管理、安全管理、運行管理など多方面で協力体制を深化させていく。

ホクブトランスポート
梅山立之社長

陽品運輸倉庫
鈴木輝彦社長

## 内陸に備蓄基地分散

### 「ＬＰガスの倉庫」有事即応へ

**陽品運輸**

陽品運輸倉庫の鈴木輝彦社長がＬＰガス輸送の安全性と効率向上へ内陸部にＬＰガス備蓄基地の建設を開始したのは、15年以上前になる。

ＬＰガス輸送のエキスパートである同社は徹底した安全対策を事業の根幹としている。ＬＰガスは市民生活と産業を支える重要なエネルギーだが、一方で扱いを間違えれば大事故につながる危険物でもある。当然、輸送距離と運転時間が長くなれば事故リスクも高まる。その点、内陸部に備蓄基地を適正に配置すればドライバーの負担が軽減され、安全対策と事故防止に結びつく。同時に、運輸業界のドライバー不足にも対応することになる。

内陸基地の存在は作業者の安全対策だけでなく、ＬＰガス供給体制の安全性を確保することにつながる。頻発する自然災害に対し、分散型エネルギーであるＬＰガスが有用であることは知られている。ただし、それは輸送網がつながっていることが前提になる。同社が大規模基地への集中を避け、内陸部にも基地を分散させた理由の一つが、万一の場合もＬＰガスを輸送できるようにリスクを分散させることだった。

経営面でも効果を発揮する。内陸の備蓄基地が「ＬＰガスの倉庫」の役割を果たすことになり、空荷での長距離運転を大きく減らすことになるからだ。

社名に「倉庫」の文字を入れたことからも分かる通り、内陸基地構想は１９７２年の会社設立時からの考えであり、まるで人員不足という物流業界の今日的課題を予見したかのような構想を抱いていたことに驚かされる。

内陸基地の展開は、２００５年に野田市に開所した野田事業所が第１号だ。同基地は20ﾄﾝタンク５基とオートガススタンド１基でスタートした後、15年に50ﾄﾝタンク３基を増設し、現在では内陸基地として国内最大級の規模となった。40ﾄﾝトラックスケールを２基備え、東日本各地への供給の要となっている。

２００５年に開所した野田事業所。50ﾄﾝ３基＋20ﾄﾝ５基の貯蔵能力は内陸基地で最大級

50ﾄﾝタンク３基とオート用25ﾄﾝタンクを備える北関東事業所（埼玉県寄居町）

### ニーズ充足へ新増設

#### オート併設も

内陸基地だけでなく、既存事業所の拡充にも積極的に取り組んでいる。ＬＰガス充填設備と民生用バルクローリーの出荷設備を備える袖ケ浦市の袖ケ浦事業所は、フロンガス代替となるイソブタンの貯蔵・出荷も行い、オートガススタンドも併設している。この事業所も荷主の大手ＬＰガス販売事業者の要請に応え、11月までに増強工事を行う。既設の50ﾄﾝ、30ﾄﾝタンク各１基と10ﾄﾝタンク２基に50ﾄﾝタンク１基を増設し、ＬＰガス輸送力を一層高める。

昨年１月には、車両整備工場を置く市原市の新生事業所に50ﾄﾝタンク１基を新設した。現状はＬＰガスを積載する基地が減少していることもあり、出荷基地では早朝からローリー車が列をなして荷積みを待つのが日常化するようになった。この長い待ち時間がドライバーの負担を増加させている。そのため出荷基地から距離的に近い新生事業所に備蓄タンクを設け、待ち時間を短縮しドライバーの負担軽減を図っている。

陽品運輸倉庫は現在、ＬＰガスタンクローリーを２０５台（内訳＝タンクローリー59台、タンクローリートレーラー55台、工業用バルクローリー61台、民生用バルクローリー30台）を保有し、配送先や目的に合った車両で配送業務を行っている。これら車両の整備も自社で行う体制を整え、安全運行に努めている。

同社には大型貯槽を据えた袖ケ浦、野田、北関東、新生、水戸の５事業所のほかにも、茨城・福島方面を守備しローリーを70台まで駐車できる神栖市の車両基地「鹿島営業所」や、バルク貯槽・容器処理施設を併設した市原市の車両基地「大作パーキングセンター」などもある。今春には新潟県長岡市に「新潟営業所」を新設した。今後も基地の整備と拡張を続けていく。

次いで07年に埼玉・寄居町に北関東事業所を開所した。同事業所は現在、50ﾄﾝタンク３基とオートガススタンド用の25ﾄﾝタンク１基を有する。この基地も40ﾄﾝトラックスケール３基を備え、信越地域までカバーしている。

新基地の水戸事業所（ＬＰガス総合物流センター）は30ﾄﾝ、60ﾄﾝタンク各１基とトラックスケール１基を備える。この基地の完成で関東から福島や長野方面への配送をカバーする強固な体制が確立されることになった。

笠間市の水戸事業所。昨年12月にオープンした

## 事業と労務最適化

### 「全人材が会社の命」安全を徹底

**ホクブ**

ホクブトランスポートは、安全管理とコンプライアンスの徹底を前提に事業運営を行う一方、スポーツや文化への社会貢献を通じて地域との共生を図っている。

「万一、当社が事業停止となれば周囲でカバー仕切れない規模でガス切れが続出する」。石油、ＬＰガスを合せたナンバープレート数が４００台超と東日本屈指の車両台数を誇る同社は、多くの工業用ＬＰガスバルクや充填所への供給を荷主から託されている。梅山立之社長ら経営幹部は、万一は許されないとの思いで二重三重の対策を実施してきた。

事故の苦い経験も踏まえたもので、20年前と比べて件数は激減。事故の内容も車対車はほとんどなく、ボディーが設備にこすったなどの軽微なものにとどまっている。

乗務員は入社から最低3カ月は研修期間。安全管理を取りまとめてきた正木一光常務は「十分な安全確保が確認されるまでは1人で運転させない」と話す。

習熟度によっては4カ月に及ぶといい、大型車両の運行、高圧ガスの安全はもとより、納入先の工場のルールも徹底して習得する。

国の働き方改革にも対応する。4年後には休日労働と時間外労働の合計が月間１００時間以内、または2～6カ月平均で80時間以内に規制される。これを睨んで時間管理を強化し、既に目安となる1カ月80時間を達成している。

積極的に有料道路を使うことで時間短縮を進め、時間管理を強化する前に比べ倍以上の利用になった。1車両当たりの運転手の数も増やし、1人当たりの負担を軽減させる。

安全輸送の理念やノウハウは、全国の協力会社50社で構成する「ホクブトランスポート安全輸送協力会」にも年6回の会議と2回の実務研修を通じ提供している。

「乗務員だけでなくすべての人材が会社の命」と考える梅山社長は、事務・企画系職員の育成にも力を注ぐ。法律、経理など各分野の外部講師を招き外部研修にも積極的に参加させ、職場内訓練（ＯＪＴ）を通じ実務への反映を図っている。

石油、ＬＰガスを合せたナンバープレート数は４００台超に上る

### 受発注業務代行も

#### 全国の荷主ニーズを充足

安全輸送を支えるバックオフィスは、荷主の受発注業務も代行している。燃料油やＬＰガスの供給依頼を受けメーカーや運送会社に手配するサービスで、荷主の要望に応えるかたちで約20年前に開始。今では北海道から九州まで顧客が広がった。多い時は1日当たり1万件に及ぶ案件を30人体制で対応する。

休日や夜間は規模を縮小するが、配送のトラブルや仕向け先変更の可能性が常時あるため、24時間体制で顧客の要望に対応する。16年の新本社ビル竣工時には、機能性や働きやすさを考慮した専用フロアを設けた。

運送業とは別に、燃料流通にかかわるサービス事業として展開している。荷主のニーズに応え、引き続き業務を拡充させる方針だ。

荷主の受発注業務を代行しているバックオフィス

### 地域振興へ恩返し

#### 球団や音楽祭をサポート

同社は１９５７年２月に高崎北部運送有限会社として設立して以来、石油・ＬＰガス運送事業者として多くの荷主と信頼関係を築いてきた。

一方、地域に対しても創業来、高崎市に本社を置いて地元経済の一翼を担ってきたが、事業の性質上、一般消費者である市民と接する機会は少ない。

地域の美化運動などに積極的に参加してきたが、地域社会にもっと元気になってもらおうと、近年はスポーツや文化への貢献にも注力している。

地域に根付いた活動への支援を趣旨としてバスケットボールＢ２リーグの「群馬クレインサンダーズ」、サッカーＪ２リーグの「ザスパクサツ群馬」、野球ＢＣリーグの「ダイヤモンドペガサス」に協賛している。

所有するローリー何台かを各チームのイラストで飾り、地域でのＰＲにも一役買う。

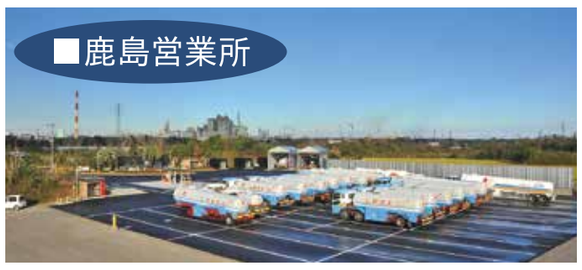
文化面では「高崎音楽祭」に協賛。開催30回を数え、市民はもとより群馬県内外の音楽愛好家に定着したイベントを支えている。

危険物輸送の社会的使命に徹する一方で、支えてもらった地元への社会貢献にも力を入れていく方針だ。

サポーターを務めるチームのイラストを描いたローリーも複数揃える

ホクブトランスポート株式会社
〒370-0803
群馬県高崎市大橋町51
Tel. 027-361-3977

北関東統括支店／群馬支店　〒370-1117 群馬県佐波郡玉村町川井23-4
栃木支店　〒327-0042 栃木県佐野市上羽田町深田402
南関東統括支店／埼玉支店　〒345-0023 埼玉県北葛飾郡杉戸町本郷605
北東京支店　〒359-0011 埼玉県所沢市南永井223-2
千葉支店　〒299-0106 千葉県市原市今津朝山300-1
東北統括支店／仙台支店　〒981-3607 宮城県黒川郡大衡村奥田66-2
青森支店　〒038-0059 青森県青森市油川字岡田146-4
帯広支店　〒080-0048 北海道帯広市西十八条北1-6-4



陽品運輸倉庫株式会社
本社／〒290-0056 千葉県市原市五井5945-1
Tel.0436-22-0581　www.youhin.co.jp

■袖ヶ浦事業所／〒299-0268 千葉県袖ヶ浦市南袖65-1
■野田事業所／〒270-0216 千葉県野田市西高野237-1
■北関東事業所／〒369-1201 埼玉県大里郡寄居町用土5920-1
■大作パーキングセンター／〒290-0172 千葉県市原市大作320-1
■新生事業所／〒290-0257 千葉県市原市新生161-4
■鹿島営業所／〒314-0252 茨城県神栖市柳川239-9
■水戸事業所／〒309-1635 茨城県笠間市稲田2439-1
■新潟営業所／〒290-0172 新潟県長岡市片田町972